

ライン天井【落下低減工法】一覧表

	落下低減天井(岩綿吸音板)	落下低減天井(グラスウールボード)	鴻池CSFP工法(帯塗くん)	
工法	地震時の天井板脱落の要因となる、Tバー幅の開き、野縁受けの滑り等が生じる各接合部を専用金具で補強する工法	従来の天井板(岩綿吸音板)をグラスウールボードに、HバーをTバーに切り替えて大判グリッドとする工法	繊維入り強化塗料の帯状塗膜による天井補強工法	
イメージ				
補強箇所詳細	 ハンガーロック M4x16ビス止め ハンガーの補強	 TH補強クリップ 2-M4x16ビス止め TバーとHバーの補強	 ハンガーロック M4x16ビス止め ハンガーの補強	 eTTクロス金具II 2-M4x16ビス止め Tバージョイント部の補強
	 CTサポート M4x16ビス止め 4箇所 CTクリップの補強	 Hバー受けチャンネル 壁際は2本設置 CHクリップ Hバー Lバー HL金具 2-M4x16ビス止め HバーとLバーの補強	 CTサポート M4x16ビス止め 4箇所 CTクリップの補強	 Tバー受けチャンネル eTTクロス金具II CTクリップ用Sスペーサー eTLクロスH=0 II Tバー Lバー 2-M4x16ビス止め TバーとLバーの補強
	 繊維入り強化塗料 設備ライン 天井ボード Tバー 天井ボード 繊維入り強化塗料 設備ラインTバー部 Tバー、Lバーの補強			
改修時の施工性	○: 部分補強のみ	○: 部分補強及び仕上げ材変更	◎: 強化塗料塗布のみ	
改修後の意匠	◎: 変化なし	△: 大判グリッドに変更	○: 強化塗料塗布部に帯状塗膜が生じる	
天井の軽量化	△: 既存とほぼ同等	◎: グラスウールのため軽量	△: 既存とほぼ同等	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 新築、改修工事、どちらの補強にも対応 天井裏での補強となるので、改修後も室内からの見た目に変化なし 全面崩落の危険が少なく事業継続計画(BCP)の有効な手立てになる 	<ul style="list-style-type: none"> 天井質量を軽減することで、地震時における天井損傷の危険を低減 天井損傷が発生した場合に復旧が容易である 天井板による吸音性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 天井裏での作業が無く、土日などの2日間で作業完了。(工期短縮、コスト削減) 天井仕上げ面の美観を損なわない補強 全面崩落の危険が少なく事業継続計画(BCP)の有効な手立てになる 	
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 設備等のメンテナンス時に点検口以外の仕上げ材着脱が困難 事務所の営業を継続しての改修の場合、施工場所の養生・既存天井材の保管等々が必要なため、工期・コスト増の可能性ある。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ材変更によるコスト増 仕上げ材変更の為、区画分けをして部分改修が困難のため、事務所の場合改修工事期間の営業停止もしくは移転が必要になる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 設備のメンテナンス時等で仕上げ材を着脱した場合、再施工が必要になる。(点検口を除く) 	
お問合せ先	株式会社 桐井製作所	株式会社 桐井製作所 ※グラスウールボードについては各メーカーにお問合せください。	CSFP工法協会 <ul style="list-style-type: none"> 株式会社 鴻池組 鴻池ビルテクノ 株式会社 株式会社 桐井製作所 日本樹脂施工協同組合 ※現場調査・見積りは鴻池ビルテクノまでお問合せください。	